

令和5年度

「少年の主張」

後志地区大会集録



日時：令和5年7月28日（金）13時30分～

会場：後志総合振興局2階講堂

北海道後志総合振興局

目次

・主催者挨拶

後志総合振興局保健環境部くらし・子育て担当部長

松村 由貴

・発表

最優秀賞

他人と自分

蘭越町立蘭越中学校 3年

久保田 翔子

優秀賞

想いを奏でて

寿都町立寿都中学校 3年

椎久 凜子

傍観者にはならないでほしい

岩内町立岩内第二中学校 3年

後藤 優仁

努力賞

人の在り方

古平町立古平中学校 3年

石沢 咲愛来

「思う」と「分かる」

余市町立東中学校 2年

渡辺 宥生

あきらめてしまうとそこで全部終わり

仁木町立銀山中学校 1年

斉藤 季生

性別の垣根を越えて

真狩町立真狩中学校 3年

福田 康樹

悲しい死をなくすために

俱知安町立俱知安中学校 3年

金澤 佑紀

早起きは三文の徳

余市町立旭中学校 3年

井上 翔天

傍観者になるかヒーローになるか

余市町立西中学校 1年

北島 叶望

自分の短所

京極町立京極中学校 3年

半田 七海

すきま

俱知安町立俱知安中学校 3年

芦田 一瑚

自然との共生のために

ニセコ町立ニセコ中学校 3年

村田 修杜

「不老長寿」と本当の幸せ

ニセコ町立ニセコ中学校 3年

佐々木 礼

命と言葉の重さ

余市町立西中学校 1年

本間 由珂

自分が今はまっていること

仁木町立銀山中学校 1年

及川 莉桜

大切な人と過ごす大切な時間

岩内町立岩内第二中学校 3年

山本 真亜沙

いじめをしている人達へ

俱知安町立俱知安中学校 3年

吉田 百花

* 優秀賞及び努力賞は発表順です。

・審査講評

審査員長 後志小中学校長会副会長〔古平町立古平小学校長〕

丸岡 哲也

・資料

令和5年度「少年の主張」会場風景……………

令和5年度「少年の主張」後志地区大会開催要領

令和5年度「少年の主張」全道大会入賞者結果

審査員長 丸岡 哲也 (後志小中学校長会副会長〔古平町立古平小学校長〕)

審査員 平野 雄二 (俱知安町青少年育成会長)

成田 志津代 (後志女性団体連絡協議会長)

福田 正樹 (北海道教育庁後志教育局教育支援課長)

松村 由貴 (北海道後志総合振興局保健環境部くらし・子育て担当部長)

主 催 者 挨 拶

後志総合振興局保健環境部くらし・子育て担当部長

松 村 由 貴



皆さん、こんにちは。

後志総合振興局 くらし・子育て担当部長の松村でございます。

令和5年度 少年の主張後志地区大会 の開催にあたり、主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。

昭和54年に始まった「少年の主張」は、今年で45回目となり、当振興局といたしましては、今年度から青少年に関する業務を環境生活課から社会福祉課に移管し、今後は社会福祉課において子ども政策を一体的に進めることとなりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度からビデオによる開催でしたが、今年度は新型コロナウイルス感染症が5類移行となり、対面での開催となりました。

これまで多くの中学生の皆さんが、日常生活を送るなかで感じたことや考えていること、未来への夢や希望などを発表し、わたしたちに感動を与えてくれました。

本日は、18名の生徒さんに発表していただきます。皆さんはこの大会に向け、日々の生活や授業、部活動の合間に原稿を書き上げ、発表の練習を重ねてきたことと思います。緊張しているかもしれませんが、肩の力を抜いてリラックスし、練習の時と同じように、自信を持って発表して下さい。

また、この中から1名が後志地区代表として、9月8日に札幌で開催される全道大会に進みます。全道大会においても存分に力を発揮されることを期待します。

今大会の開催にあたり、お忙しい中、審査員をお引き受けいただきました皆様にお礼申し上げますとともに、審査の程よろしく願いいたします。

そして、本日会場にお越しく下さいました皆様、また、日頃から青少年の健全育成に取り組んでおられる関係者の皆様、ご協力いただいた学校関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

最後に、生徒の皆さん。先ほども言いましたが、肩肘張らず、リラックスして頑張ってください。皆さんの発表を楽しみにしております。

他人と自分

北海道蘭越町立蘭越中学校三年 久保田 翔子



最後の笛がなり、私たち、三年生の試合が幕を閉じました。中体連。最後のバレーボールの試合が、今、準決勝のコートで。

これまでの部活動を振り返るとたくさんことができました。

私がまだ二年生のときです。三年生が引退し、一年生と試合に出るようになってから少したったときのことです。一年生の一人が、「バレー部が辛く、やめたい。」と言いました。原因はあいさつです。バレー部が大切にきてきて、先輩から受け継いできた、いわゆる伝統です。それが一年生の一人には負担になっていました。きっと、その子だけに強く言ったからでしょう。「バレー部をやめたい。」その相談を受けたときは辛かったのが本音です。

最終的には、ミーティングを重ね、バレー部内で、ルールを作り解決しました。

今年に入ってすぐの頃です。私の左足首が異常に痛くなりました。病院で診断してもらった結果は、へん平足による足首の変形でした。私はあせりました。「中体連に出られなかったらどうしよう。」目の前が不安だらけの真っ暗になりました。練習ではなるべく無理をせずに、中体連に向けて動いていく方針にしました。一人だけ取り残されたように感じてしまいました。私がステージで休んでいる中、仲間はコートで、跳んでスパイクを打っていました。

夜、寝る前に、不安・孤独を感じ、よくわからない感情に襲われ泣く日もありました。私の中で、苦しく、辛いことでした。

そんな中、コート内で、自分の所に来たボールしか触らない人がいました。ずっと前からでした。言おうか悩むけれど、いつも言わない。そんな日が続いていました。コート外で見ている私にできることは言うことだと思い、言いました。「動いてないよー。自分がボール触ってる時以外動いてないよー。」と。その直後は、少しふてくされたようなそぶりを見せた彼女。部活が終わり、給水になった時です。彼女は水道の前で泣きました。私はどうすればいいのかわかりませんでした。私の責任なのか、私が悪いのか。でも、「謝るのは私じゃない。」そう思いました。彼女は一週間後の大会にも来ませんでした。戻ってきたのは約九日後でした。担任と顧問の先生と話して戻ってくることに決めたいです。正直、私は、納得できませんでした。でも、戻ってきてくれただけでもいい事だと思い、中体連に向け、気持ちを切り換えていきました。その後、チームはいつも通りをとり戻しコートの中で、コミュニケーションをよくとるようになりました。

これらの様々なことを乗り越えてきたチームは、団結し、いつもよりもいい顔でプレーをしました。コートに入る前のかけ声「さあいこー、よーし！！」一番大きい声を出し、最後の中体連を終えました。

これまでの部活動での経験を通して、私はどうするべきだったのか考えてみました。あのとき、「動いてないよ」と私が言うのではなく、先生に相談すればよかった。言う時期を考え、もっと前のうちに言えばよかった。

私のけがは、痛みを感じ、無理をしているなど思ったときに、安静にしていればよかった。

そして、一年生のあいさつについては、自分達の意見を押しつけずに、相手の思いもきいていればよかった。そう思います。

私は、部活動を通して、他人との付き合い方、自分自身との向き合い方について学びました。二年生の後半から、中体連まで、私は周りのことを気にしすぎ、自分のことを考えられず、自分を守れなかったことが負担だったんだと感じます。もっと自分のことを考え、守り、大切にすれば良かったと思いました。

これからは社会人になり、たくさんの人がいる中で行動をしていくことになります。その中で生きていくためには、人に合わせて、周りをもっと見ていくことを大事にしなければなりません。私は、その場の状況に合わせて、動ける人、相手の辛さを理解できる人になりたいです。そして、自分の守り方を知り、自分を無視しない「これが私」と言える人になりたいです。

みなさんは、他人と自分、どうやって向き合っていきますか。

想いを奏でて

北海道寿都町立寿都中学校三年 ^{しいく} 椎久 ^{りこ} 凜子

私はただひたすらに音を出し演奏する人全員で音を出すものだと思っていました。しかし音楽の本質はそこではない、そうわかりました。

私は中学校で器楽部というリコーダーを吹く部活に入っています。この器楽部は毎回のように全国大会に出場している伝統のある部活です。私も一年生の時は全国大会に出場したのですが、新型コロナウイルスの影響で動画審査になってしまいました。また二年生の時は全国大会に出場し、会場演奏ができました。コロナが明け三年ぶりの開催。私達にとっては初めての人前での演奏でした。緊張と不安でいっぱいでしたが、全力で演奏ができました。一方で淡々と演奏しているという課題が見えてきたのです。また全国大会で他の人の演奏を聴いたのですが、それらの演奏は私の心を魅了しました。私達の課題である淡々とした感じがなく、一音一音に魂がこもっているように、美しく音が響いていました。同じ中学生なのになぜなのか。そして私達に足りないものは何なのか。私には問いが残りました。

器楽部に入ってから私に影響を与えた人たちがいます。部活の先輩たちと顧問の先生です。

私達一年生は始めたばかりで慣れないことも多かったです。教えるのも大変だったと思います。しかし、私達のために様々な方法で育ててくれました。そのおかげで一年生の時に全国大会に出ることができたのです。そんな先輩二人は私達のあこがれの存在です。

一・二年の顧問だった音楽の先生。私達はその先生と出会い様々な事を学びました。集中できていない時、色々な事が不安でそっちのけになってしまう時。全て音は伝えてしまう。私はそれを見抜かれた時驚きました。それは自分では意識していなかったけれどそうなってしまっていたからです。音は自分の気持ちや思いをコントロールすることが必要になります。一音一音に気持ちを丁寧にのせていく。音楽はそうすることでいい演奏につながるということを学びました。

私達は二年生の時二人で部活を行い演奏していました。二重奏という演奏形態は二人の音しかないからこそ合わせる事が難しいです。練習の時は二人しかいないためお互いに「ここをこうした方がいいんじゃないか」などアドバイスや意見を言う形で行っていました。それは良い進め方だったと思います。一人が進めていくとその人の音楽になってしまう。二人だけの音楽を作らなくてははいけません。二人で言い合いになることももちろんありましたが、二人にしかできない音楽を作り上げていく。難しい事だけれど話す、という事が大切だと分かりました。

この四月に一年生が一人入部して器楽部は三人になりました。二重奏から三重奏になったため音の重なりがよりきれいになりとても楽しいです。

私はこの三年間で音楽の本質を見つける事が出来ました。音楽とは自分の魂の表現であり支えてくれている人の存在もまた表している。自分の気持ちや思いを曲にのせることで聞いている人にそれを届ける。それが出来るようになると楽しさが今以上にわき上がってくると思います。

私にはまだ一月に全道大会へのチャンスがあります。私達は初めての三重奏でなれない事が沢山あると思います。それでも今回学んだ事を生かし私達にしかできない音楽を目指していきたいです。

学樂恩という言葉があります。これは音楽から学び、楽しみそれで恩を返すという意味です。私は音楽に関わったことで支えてくれた人の存在、音楽の魂について学びました。しかしまだ支えてくれている人への恩返しはまだだと思っています。恩返しをするためにも一音一音を魂をこめて演奏し自分達の音楽を一生懸命作っていきたくたいです。そして本当の音楽を奏でられるようになりたいです。

傍観者にはならないでほしい

北海道岩内町立岩内第二中学校三年 後藤 優仁



よくいじめる側を庇うような発言として、「いじめる側にも理由がある。」というものがあります。本当に理由などあるのでしょうか。理由があれば何をしてもよいのでしょうか。私は何一つとしていじめる側の気持ちや考えを理解できません。みなさんはどうでしょう、いじめる側の気持ちや考えを鵜呑みにはしていないのでしょうか。ちなみに、ここでの「いじめ」は「一人に対して複数人が心身に影響を与えるような行為のこと。」と定義することになります。

インターネットが発達したこの世の中ではいじめが増加しています。内閣官房が行った調査によると、2021年度の小・中・高等学校におけるいじめの認知件数は517163件、2022年度は615351件で2022年度は2021年度に比べて、98188件も増加していることがわかります。そのため日本では、いじめ防止対策推進法などの対策がとられています。そんな状況の中で私は、最終的にいじめを解決するのは傍観者だと考えています。この考えをもつきっかけとなったのは中1の秋のある出来事でした。

私がジャージに着替えるために更衣室へいくと、他の人たちもいてその中にはY君とK君とS君がいました。Y君がズボンを脱いだとき、K君とS君がY君の下着をからかうようなことを言っていました。私はバカにされるのが怖くて何も言うことができませんでした。傍観者になってしまっていたのです。着替え終わった後も、何もできない自分の不甲斐なさや罪悪感でずっと心がもやもやしていました。家に帰ってもそのことだけを考えていました。もし、Y君が学校に来なかったらどうしよう…もし、自殺してしまったらどうしよう…などと考えると、急にY君のことが心配になってきて落ち着きませんでした。次の日、学校に行ったらすぐに昨日の出来事を先生に伝えました。私は少し安心しました。これで解決するだろうと思っていたのです。しかし、一週間たっても状況は変わらず、発言は次第にエスカレートしていきました。先生に言っても何の証拠もなければ結局ダメなのか…状況は悪化していくし、先生は動けないし……その時ふと、Y君の顔が頭に浮かびました。誰も助けてくれず、困っているような、悲しい顔をしていました。Y君は今、辛い思いをしているのに、自分たちだけが楽な道に逃げるのは間違っている。先生に頼らないで、自分みたいな傍観者が行動するしかないと決心しました。そして次の日、更衣室でまた同じ出来事に遭遇しました。恐怖をすて勇気をふりしぼり、「そういうのもうやめろよ。」と少し強に言いました。わだかまりが解けたような爽快な気持ちでした。K君とS君はそれ以上は何も言いませんでした。その後僕はY君からお礼を言われましたが、私は最初、何もできなくて、近くで見ただけなので申し訳ない気持ちでした。でも、その日はずっと心が温かった気がします。

改めて、いじめは人にとって失うことのできない「人権」を侵害し、未来や希望、幸せや日常、最悪命をもうばってしまう絶対に許されない行為です。もし、あなたの身のまわりでいじめがあったら、あなた自身がいじめられている人を助けてあげてください。少し怖いかもかもしれませんが必要なのは勇気と思いやりだけです。みんなで元気に学校に登校し、明るい未来をつくるために、行動を起こすのは私達自身です。

人の在り方

北海道古平町立古平中学校三年 いしざわ きあら 石沢 咲愛来



「男がメイクなんておかしいよ、女じゃないんだから。」

信じ難いですが、これは私が実際に聞いたことのある言葉です。幼い頃の私だったらこの言葉を聞いた時、何の違和感も無く、「ああ、おかしいことなんだな」とスルーしていたでしょう。ですが今は、この言葉は違和感でしかないのです。むしろその発言がおかしいと思うほどです。

今、世の中ではジェンダー、ジェンダーレス等の言葉があふれています。その中でも私が注目したのはジェンダーバイアスという言葉です。ジェンダーバイアスというのは男女の役割を決めて考えることで、例を出すと男は青色、女は赤色やピンクといったことが挙げられます。何気無い日常を見つめ直してみると、ジェンダーバイアスは意外と身近にあります。それは私達が日々生活を送っている学校にもあるのです。学校には名簿というものがありますよね。もちろん私達の名前も名簿に記載されています。今は男女混合の名簿ですが、昔は男女別の名簿でした。また、男女別という観点でいくと、男子は技術科、女子は家庭科を勉強しましょうという決まりがありました。男子は力仕事、女子は料理やさいほうというイメージが根付いていたのです。ですが現在は男女関係無くどちらの教科を学ぶことから、ジェンダーレスが広まっていると感じています。ですが、まだジェンダーに対する偏見が根強く残っていると感ずることがあります。

皆さんは幼い頃、どんなおもちゃで遊んでいましたか。女の子向けのおもちゃ、男の子向けのおもちゃで遊んでいたと思います。こんなことは無かったでしょうか。「男の子は電車や車、女の子はお人形やおままごとで遊びましょう。」と。ですが、私だって車で遊びたいのに、僕だってお人形で遊びたいのにと思うことがあります。私自身、男の子向けのテレビ番組の変身アイテムを集めていて、あまり人形では遊んでこなかった思い出が残っています。私の甥っ子もよく車で遊びますが、おままごとでも遊んでいます。おままごととは通っている幼稚園や家で覚えてきたらしく、私の家族も一緒になって遊んでいます。食材のおもちゃを盛り付けてみんなに配ったり、料理をしたり、おままごとで遊んでいる甥っ子の姿はすごくいきいきしています。このようなことから、おもちゃにジェンダーの概念は必要無いと考えます。先程私は、「女の子向けのおもちゃ、男の子向けのおもちゃ」と述べましたが、おもちゃにそんな言葉は要りません。全ての子供が遊びたいもので遊び、楽しむという環境が必要です。大人が男女の型にはめて遊ばせるおもちゃを制限してはなりません。なぜなら、その子が本当に遊びたいのは、大人のエゴで作られたおもちゃではなく、その子が今手に取っているおもちゃだからです。私は甥っ子が人形で遊びたいと言うなら遊ばせてあげたいし、かわいいおもちゃが欲しいと言うなら与えてあげたいです。

今、この世の中に必要なのは固定概念に囚われないことです。社会全体においてジェンダーに関する知識を広め、偏見をなくしていくことが私達に求められていることです。普段から SNS を活用しているいわゆる若者という世代には少しずつジェンダーに関する知識や興味・関心が広まっていると感じています。ですが幅広い年代まで知識や興味・関心が広がっていないと感じています。ですから、まずは社会全体で知識を深めることが大切な一歩なのです。そして、私達中学生に出来ることはジェンダーレスに関する情報を調べたり、本を読んだりして、知識を深めることですが、深めるだけでは社会全体に広めることは出来ません。ですから、学んだことを身近な家族や、友達に話し、ジェンダーレスについての知識の輪を繋いでいきましょう。こういった活動の一歩として、私の好きなボーイズアイドルグループが、ジェンダーレスアクセサリーのモデルや、化粧品ブランドのアンバサダーに就任するなど性別に囚われない活動をしています。このような活動が日本でもたくさん増えていくことも大切な一歩だと考えます。好きなものは好きだと、したいものはしたいと胸をはりましょう。そして、「これが私だ」と示していきましょう。



「思う」と「分かる」

北海道余市町立東中学校二年 わたなべ 渡辺 ゆうすけ 宥生

僕は、プロ野球チームの東京ヤクルトスワローズのファンです。僕自身は野球を習っていないけれど、豪快なホームランを打ちまくる村上選手や、足が速く守備も上手な塩見選手のプレーを見ると、ワクワクしてきます。一昨年、昨年とリーグ二連覇をしましたが、今年は九連敗したり、なかなか波に乗れず、とても心配しています。

僕は以前まで、スワローズの選手が三振やエラーをすると、「どうして振らない?」「今のエラーはありえない!」と思っていました。けれど、昨年末に生まれて初めてバッティングセンターへ行き、バットを振ってもなかなか当たらない、当たってもポテポテのゴロ、少しも村上選手のようにはいきません。ピッチングの的当てでも全くコントロールできませんでした。おまけに、打つ、投げるを繰り返すうちに、手の皮がむける始末。実際に自分でやると難しく、やはりスワローズの選手たちはすごいなと感じると同時に、試合を見ながら文句を言っていた自分が恥ずかしくなりました。

なぜ、以前の僕は選手のプレーに「どうして?」「ありえない!」と思ったのだろう。なぜ、実際の難しさが分かってからそのことが恥ずかしくなったのだろう。思った自分と分かった自分、ここに大きな違いがあるのではないかと感じ、普段あまりはっきり区別していなかった「思う」と「分かる」について考えてみました。

僕の家はトマト農家です。両親はビニールハウスの中でいつも作業しています。僕は暑さと虫が嫌いだし、「辛そう」と思っていたので、手伝うことはしていませんでした。実際やってみても、暑い中でトマトの葉っぱを取ったりする作業は、案の定辛くて楽しくなかったです。でも、「朝早くだったら、気持ち良いよ。」と父と母が言っていたので、「眠いのには大変だな。」と思ったけれど、ためしに早起きして手伝ってみました。すると、けっして楽しいとは言えなかったけれど、涼しく、頭がスッキリとさえて、作業がグングン進むのです。しかも、不思議と時間が長く感じ、充実感があり、「早起きって素晴らしい!」という発見もできました。

このことから、「思う」と「分かる」の違いを次のように考えました。「思う」というのは、今の自分を変えることなく、見たり聞いたり想像してできること。「分かる」というのは、それに加え、自ら積極的に経験したり挑戦してみたり、物事に一生懸命取り組んで初めてできること。しかも、自分が良く変われること。例えば、食べ物はスーパーなどにあるのが当たり前だと思っていたけれど、農作業の手伝いを通じて、決して当たり前ではないと分かり、食べ物があることに感謝するようになりました。他にも、毎朝欠かさず僕たちにあいさつをしてくださる校長先生を見て、僕も率先してあいさつを言えるようになったこと。陸上で三段跳びに挑戦してみたこと。家庭学習の方法を変えたこと。日常生活の中に、「思う」が「分かる」になり、自分が良く変わった経験がたくさんあることに気がつきました。

そう考えると、日常の行動だけではなく、社会の出来事も、思っているのか、分かっているのかで、大きく違ってくるような気がします。世界で起こる様々な紛争、今は、ロシアとウクライナの戦争が続いています。争っている国や人々、それぞれを支援している人たちはそれが良いと思っているだけではないでしょうか。僕は争いがなぜ起こるのか、戦う意味は何なのか、分かりたいです。そして、僕だけではなく、みんなが分かれば、良く変わる、つまり戦争はなくなるはずだと考えます。

「思う」と「分かる」を考えてみて、僕にはまだまだ分からないことがたくさんあるということが分かりました。きっと、今、中学校で学んでいる勉強、部活動、日頃のほとんどすべてが、「分かる」につながる大切なことだと思います。僕はこれからも、何事にも一生懸命取り組み、「分かる」ことを増やしていきたいです。

あきらめてしまうとそこで全部終わり

北海道仁木町立銀山中学校一年 さいとう 斉藤 きい 季生



私は、スポーツが好きです。その中でもバドミントンが特に好きです。私は、小学一年生の時からバドミントンをやっています。すごく仲のよい友達が入ったのがきっかけで始めました。

最初は、先に始めていた人に馬鹿にされることもありました。すごく悔しくてずっと頑張っていました。そのおかげか、二年生の時に全道大会に出ることができました。今思えばその時の練習がものすごくきつかったです。同じ年の子どもたちより遅く始めたので、すごく頑張るしかありませんでした。馬鹿にされるのはすごく嫌だったので、頑張りました。

初めて大会に出たときはやっぱりすごく緊張したり不安もあったりして監督やコーチと練習でやってきたことを思い出して、試合でしっかりとプレーしました。結果はベスト十六でした。全道大会という舞台は初めてだったけどものすごく達成感がありました。でも、悔しい気持ちもあったので、その後の練習もきついけど楽しく思えました。

三・四年生になってダブルスで大会に出ました。シングルスとは全然違うので、やっぱり慣れるまで大変でした。でも、ダブルスは二人なので安心感がありました。たくさんよいショットを決め優勝することができました。すごくうれしかったです。優勝できたことで今まで練習してきたことが力になったのだと実感できました。仲間もたくさん応援してくれて本当にうれしかったです。

学年が上がっていくと、いつもより練習がすごくきつくなりました。もう無理やめたいと何度も思いました。でも、あこがれの選手もいたし、あきらめず頑張ろうと思いました。あきらめてしまうと、今までやってきたことが全部無駄になってしまう、それだけは嫌なので、前よりも真剣に取り組みました。それからたくさんの大会に出ました。しかし、あるときオスグッドになりすごく痛くて辛かった時期がありました。病院に通いリハビリをしていくうちにだんだん良くなっていきました。しかし、手術をすることになりとても不安な気持ちになりました。でも、バドミントンをしたいという思いは、ものすごくあったので手術後のリハビリも頑張りました。そして久しぶりに練習をして、初めは感覚が戻らなかったけど、やっていくうちに戻っていきました。練習ができなかった辛さがあったからこそ、練習の有難さを感じるができ、一回一回の練習を大切にできるようになりました。すると、その後の大会で優勝することができ、練習の大切さを改めて感じました。

私がこれまで競技をして特にうれしかったことは、ある全道大会の団体戦で上位をとれたことです。札幌など大都市から来る選手がいる中での上位の成績だったので、良い経験となりました。自分たちの弱いところがわかったことが一番の収穫でした。負けて悔しかったけどとても楽しい経験でした。諦めずにやってきてよかったと思えました。

私がみなさんに伝えたいことは、自分がダメだと思っても、前向きに考えてあきらめずに何事にも取り組んでほしいということです。

あきらめてしまうとそこで全部終わってしまいます。スポーツでも勉強でもそうだと思います。終わるということは、そこから先につながらないのです。

やめたいときもあったけれど、教えて下さったコーチの人や両親に恩返しをしたくて、あきらめなくてよかったと今とても思っています。この思いを大切にして、これからも練習を頑張り、バドミントンを一生懸命楽しみながら頑張っていきたいです。

「性別の垣根を越えて」

北海道真狩村立真狩中学校三年 ^{ふくだ}福田 ^{こうき}康樹



「男なのに女子みたいな事するなよ」。これは、僕が小学生だった時、クラスメイトや上級生、下級生にまで言われた僕の一番嫌いな言葉です。皆さんは「男の子なのに泣くんじゃない」「女の子なんだからおとなしくしなさい」と言われた事はありませんか。

僕は、四つ上の姉の影響を強く受けて、小さい頃から女の子とよく遊んだり、アイドルグループや少女漫画が好きだったり、と趣味や考え方が女性に近い方でした。しかし、このことで、学年が上がるにつれ、悪口を言われたり、仲間外れや無視をされたりすることが増えていきました。当時の僕は気が弱く、どんなに嫌だったとしても「先生にチクったとばれたら何をされるのか怖い」と思い、先生にも言えず自分の中で嫌な事をずっとため込んでしまっていました。ですから、その時期は本当に辛く、学校に行きたくないと思うことも度々あり、いつもなら会いたはずの友達にもあまり会いたくなくなり、休み時間友達と遊んでもつまらなく思え、一人でいる時間が増えていきました。

そして、そんな日々を過ごす中で「自分がしたい事でも我慢して女子ともあまり関わらず男らしくしなければいけない」と思い込むようになり、どんどん「自分らしさ」がなくなっていくのを感じていました。

しかし、そんな考え方が一気に変わる出来事がありました。

ある日、僕は友達とは遊ばず一人体育館のギャラリーで遊んでいました。すると、小さい頃から一緒に遊んでいて仲のいい女子が来て、「最近元気ないけど何かあった？」と聞かれました。僕は、少しためらいましたが、今まであった事や自分の気持ちをすべて正直に話し、先生にも言っていない事も話しました。するとその子は少し黙った後、「男だからとか、女だからとか関係なく、自分のしたい事をした方がいいよ」と励ましてくれました。その時僕は、「自分のことをわかってくれる人がいたんだ。」と気が楽になっていくのを感じました。そして、この日から少しずつ、自分のやりたい事をやれるようになっていき、以前のマイナス思考がプラス思考へと変化していきました。そして、そのひと言をきっかけに、僕は前のように明るく前を向いて生活できるようになりました。

僕は、性別の垣根を越えて互いに認め合い、理解し合えることで、僕のように救われ、楽しく毎日を過ごせる人が増えると思います。けれどまだ、「男子が化粧したりするな」「女子だから家事が出来なきゃいけない」などの性差別がたくさんあるのが現状です。僕は、「男だから」「女だから」とか関係なく、それぞれが自分の個性を大切に、胸を張って生きられるような社会になって欲しいと願っています。

皆さん、世の中に色々な人がいます。自分と違うからと言って、否定したりせず、相手の考えを尊重し、みんなで温かい社会を築いていきませんか。

悲しい死をなくすために

北海道倶知安町立倶知安中学校三年 かなざわ 金澤 ゆうき 佑紀



みなさん、こんにちは。突然ですが一つ質問をします。今、あなたが生きている一秒一秒は当たり前だと思いますか。はっきり言うと当たり前ではありません。なぜなら、今私たちがゆったりと過ごしているこの瞬間にも世界のどこかでは、罪もない多くの人々の命が奪われているからです。数え切れないほどの人々が、戦争や内戦、紛争などの望まない戦いに巻き込まれて亡くなっています。私はそんな人々を一人でも多く救いたい。では、どうすれば救えるでしょうか。

現在、ロシアとウクライナの戦争を始め、様々な戦いが続いていて、尊い命が奪われています。戦争や内戦、紛争では、「生きる権利」が最も侵害されるとされ、一般住民や非戦闘員に対する虐待、虐殺、強制連行などの酷い仕打ちによって奪われます。こんなこと黙って見過す訳にはいきません。みなさんも私と同じ筈です。平和的に解決する方法として、未然に争いを防ぐため、仲介または交渉をする「予防外交」、争いを防ぎ、人々が傷つく事から守るため、武器を回収、破棄をする「予防軍縮」、国際連合直轄の機関で、国際法に基づき、戦争をやめるよう強く勧告でき、とても権威のある「国際司法裁判所」この三つが、挙げられます。ですがこれは、国家間の問題であり、私たち中学校にできることは、募金。そのみしかありません。ですが一つ考えてみてください。争い事は、人と人の考えの違いから、関係に亀裂が走り、自分と異なる考えの人を気に入らなくなり、ケンカへと発展する。分かりますか。そう考えると、身近な人間関係と戦争、紛争、内線のメカニズムは、似てないように見えますが実は似ているんです。戦争などの争い事の解決法は、身近な人間関係に置き換えて考える事ができ、「予防外交」は、ケンカが起きる前に一度ゆっくり話し合う事。「予防軍縮」は暴力などを使わない。「国際司法裁判所」は、先生や仲介役の友達。このように置き換えることができます。

そこから、今、私たち中学生にできることは何か。それは、隣の席の人、クラスメイトとの関係を仲良くすること。朝、教室に入ったとき、まだ喋ったことがない異性に一言「おはよう」と言ってみる。そうやって人と人の関係を深めていく。やがて、ケンカの原因が無くなっていく。それが巡り巡って国家間の関係にも影響してくるのではないのでしょうか。戦争、内戦、紛争なんてそう簡単に無くせるものじゃない。なら、もっと身近な所から、人の意識、価値観を変えていけばいいんじゃないのでしょうか。今日この話を聞いた人は、家に帰ったら、誰でもいいですから、今日私が話したことを伝えてあげてください。

そしたらきっといつか世界は変わり始めるから。

「早起きは三文の徳」

北海道余市町立旭中学校三年 いのうえ 井上 しょうま 翔天



みなさんは朝型ですか？それとも夜型ですか？おそらく、朝型の人よりも夜型の人のほうが割合が高いのではないのでしょうか。塾や習い事、宿題や家庭学習、テスト勉強などに追われ、早く寝たくても寝られない。という人も多いはずですが、ちなみに僕は完全な朝型です。ですが、習い事もしていますし、宿題やテスト勉強もしっかりしています。僕は、夜ふかしをして夜に活動するよりも、早起きをして朝に活動するほうが、メリットが多いと考えています。まさに、「早起きは三文の徳」ということわざの通りです。このことわざは、「朝早く起きることは健康にも良いし、また、なにかしらのいいことがあるものだ」という意味です。僕は、朝に活動したほうがよいと考える理由を、自分の生活習慣と体験を基にして改めて探し、大きく3つ見つけることができたので、紹介します。

僕が考える、なにかしらのいいことの1つ目は、「ストレスを発散する時間が作れる」ということです。僕は毎日、9時に寝て4時半に起きています。習いごとで帰宅が9時半を過ぎてしまう日もありますが、シャワーを浴びて、できるだけ早く寝てしまいます。そして、朝早起きをして勉強したり、趣味に時間を使ったりしています。それが、ストレス発散につながるのです。みなさんの中にも大勢の人と過ごすよりも、1人でいる時間が欲しいと思う人がいるのではないのでしょうか。早起きをすると1人で好きなことができる時間を作ることができます。僕の場合、勉強をする日もありますが、趣味の競馬の予想をしたり、料理をしたり、本や漫画を読んだりしてストレスを発散しています。1人で好きなことをしている時間は、嫌なことや悩みごとから開放され、とてもストレス発散になります。先日、普段より早い3時半に起き、サイクリングに出かけました。まだ日が登っておらず、毎日通るような道も、まるで別世界のように感じ、とても刺激的でした。このように、普段とは違ったことに挑戦してみても、良いストレス発散になるのではないのでしょうか。

なにかしらのいいことの2つ目は、「スケジュールに予定が生まれる」ということです。朝早く起きて活動するので、朝に活動できる時間が増えるのは当然です。ですが、夜に2時間活動するよりも、朝に2時間活動したほうが、その日のその後のスケジュールに余裕をもつことができます。具体的に僕が一番大きく感じたメリットは、忘れものをしなくなったことです。僕は今年の2月頃、頻繁に忘れものをしてしまっていた時期がありました。ですが、その時期は習い事や生徒会での活動が忙しく、生活リズムが崩れてしまい、早起きをすることができていませんでした。なので、忘れものの数が増えてしまったのは早起きができなかったことに関係づけられます。早起きをすると、朝学校に行く前に少しだけ隙間時間が生まれ、その分持ち物の確認ができるようになるのです。その他にも、身だしなみの確認ができたり、ニュースを見ることができたり、自分で作り出した時間で朝の時間を有効に過ごすことができます。

なにかしらのいいことの3つ目は、「勉強の効率が格段に上がる」ということです。自分流の勉強法なので、あまり皆さんにおすすめることはできませんが、僕は基本的に学校から帰ってきてその日のうちは勉強をしません。部活終わりで疲れていて、眠気と戦いながら夜遅くまで勉強だなんて辛すぎると思いませんか？僕はできるだけ辛いことは避けたいので、朝に勉強をするようにしています。夜遅くに、眠気に耐えながら勉強するのは効率が悪いし不健康です。想像してみてください。学校から7時に帰宅して9時から11時まで2時間勉強する場合と、朝早起きをして、睡眠でリフレッシュされた頭と体で5時から7時まで勉強する場合では、両方とも2時間の勉強でも朝のほうが明らかに集中できると思いませんか。僕は、テストで良い点数をとりたいたいのなら、時間よりも効率に気を配るべきだと考えています。テストで毎回のよう一位二位を争っている人は自分に無理をさせていない人が多いはずですが。逆に、思うように点数が伸びずに悩んでしまっている人は、

自分に無理をさせてしまっているのかもしれませんが。そこで、無駄となってしまう努力をせずに、効率よく勉強をする方法として一度、早起きをためしてみませんか。ここまで早起きをすることのメリットについて紹介しましたが「自分に早起きを続けるのは難しそう」と不安になっている人は少なからずいるのではないのでしょうか。でも大丈夫です。僕もはじめは、慣れない早起きを続けるのが大変でした。でも、一日、一週間、一ヶ月と続けると、きっと何かが変わるはずです。

この「早起きは三文の徳」のように、早起きをすると、思いがけないにかしらのいいことがたくさんあります。それは人によって起こる何かが変わりますし、すぐには変化が起こらないかもしれませんが。ただ、早起きという決して無駄になることのない努力を積み重ねることで、「徳」という名の「自分自身の成長」へとつなげていけるはずです。「早起きは三文の徳」この言葉を胸に刻み、いつもの日常をもっと楽しく、もっと明るく、より有意義な一日にしてみませんか。

傍観者になるかヒーローになるか

北海道余市町立西中学校一年 きたじま 北島 かのん 叶望



ある日、私はとあるニュースを見ました。それは、アメリカの地下鉄で白人の男の人が、黒人男性の首を数分間絞めて死亡させたというものでした。車内で撮られた映像には、白人の男の人の他にも周りの男性たちも腕などを押さえつけている様子が残っていました。私はその時、疑問に思ったことがありました。なぜ、周りに居た男性たちは、黒人男性を押さえつけたのか、周りに人が居たはずなのになぜ止めにはいらなかったのか。誰かが止めてくれば黒人男性は助かっていたかもしれないのに…という思いでいっぱいになりました。

一緒にニュースを見ていた祖母も、「誰かが助けてくれば良かったのに…」と言っていました。けれど、「見ていた人たちも怖かったり、辛かっただろうね。」と呟いていました。もし、自分がその場に居たら、どう行動しますか？私は口先だけで、きっと行動できないと思います。口に出すのはすごく簡単だけど、行動に移すのは難しいと痛感したことがありました。

小学校のとき、クラスの中でいじめが起きました。いつも通りの様子だったので特に気にもしていませんでした。周りの子たちも特に気にしていませんでした。ですが、いじめられていた子は傷ついていました。気づいて止められれば何か変わっていたかもしれないと後から後悔してばかりでした。少し前に道徳の授業でもいじめについて学習したばかりでした。ワークシートの自分の考えを書くところに、「もし、周りでいじめが起こったら自分は、どう行動するか」とありました。私は、止めにはいって助けると書いていました。でも、実際は出来ませんでした。

ある日、教頭先生がこんな話をしました。「いじめは、相手をいじめるのも、いじめられているのを見て見ぬふりをしたりすることもなんだよ。いじめをする人を加害者、見て見ぬふりをする人を傍観者。みんなはどっち？」

私は考えました。私は知らず知らずのうちに傍観者になっていた。そう思うと怖くてたまりませんでした。いじめはよくないと思っても、いざ動けないと意味がないと分かって、自分の行動が人を幸せにするヒーローになるか、人を傷つけてしまう加害者、そして傍観者になるかその三択なのだと思います。

傍観者や加害者にならないためには、行動が大切だと私は考えます。あのニュースで見た、ニューヨークの地下鉄の事件。周りで見ていた人はどうすればよかったのでしょうか。トラブルを止めるのはすごく難しいと思います。止めるのは、とても勇気のいることだし、止めなくてとは思ってもなかなか行動に移せないと思います。ですが、止めにはいる以外にもトラブルを解決する方法はたくさんあるはずです。例えば、地下鉄の非常用ボタンを押す、電車が止まったら人を呼びに行くなどできることはたくさんあるはずです。みなさんも、自分にできることをさがして行動してみませんか。

あなたは、傍観者になりますか。それともヒーローになりますか。

自分の短所

北海道京極町立京極中学校三年 はんだ 半田 ななみ 七海



皆さんの自分の短所はどんなところだと思いますか。マイペース、優柔不断、短期など一人一個以上は思い浮かぶと思います。私も考えれば考えるほど沢山思い浮かびます。その中で私が思う自分の一番の短所は負けず嫌いだと思います。

この負けず嫌いは私が得意な中長距離でよく出てきます。去年行われたマラソン大会。このマラソン大会では、親との「一位をとる」という約束がかかっており、元々の負けず嫌いが重なって（絶対に一位になってやる）と心に大きな火がつきました。

そんな強い気持ちを持って臨んだ当日。途中で抜かされても諦めずに追いつき、今までで一番負けず嫌いが出たと思います。そうやって気持ちのままに走った結果、私は一位でゴールすることができました。必死になりすぎてゴール後に体調を崩してしまいましたがそれでも本当に嬉しかったです。今考えると負けず嫌いで良かったなと思います。

他にも負けず嫌いは、シャトルランのときにも出てきました。私が走る前に同級生の女子が良い記録を出したとき、（負けてられない）という気持ちになりました。

走った結果、私は同級生の女子の記録を超すことができ、さらに自己ベストの回数を出すことができました。自己ベストも出せて、自分は女子の中で一番長く走れたということが嬉しかったです。

私が今話した2つの出来事に共通することは、負けず嫌いによっていい結果を残せていることです。もし、負けず嫌いがなくて（一位じゃなくていいや）や（負けてもいいや）という気持ちで走っていたりしたら、話したようないい結果は残せなかったのかもしれません。

この経験から、私は一つ伝えたいことがあります。それは、短所にもいいところがあるということです。私はまだ負けず嫌いが完全に長所とは言いきれません。だから、負けず嫌いが出たときに（負けず嫌いでいい結果を出すんだ）と少しポジティブに考えようと思います。

皆さんも自分の短所がいいなと思った出来事はありますか？日々の生活を思い出してみたら、短所がいいなと思える出来事があるかもしれません。もしなかったとしたら、これからの生活の中で私と同じように少しポジティブに考えてみてください。いつか皆さんの短所も長所が変わってポジティブに考えることが出来るかもしれません。

この短所のことはネットの誹謗中傷にも言えます。誹謗中傷というものは簡単にいうと人の短所を認められないことだと私は思います。誹謗中傷をされている人は、芸能人が多く、誹謗中傷をしている人はほぼ一般人です。誹謗中傷をされている芸能人だって同じ人間なんですから短所があって当たり前です。それなのに、その人の短所が出てきただけで叩くのはおかしいと思います。他の場面で同じ短所でもそのおかげで良い展開が起きていたかもしれないんです。短所を悪く捉えるだけでなく、短所をよく捉えることも大事だと思います。こうやって人の短所も認めることで、少しでも誹謗中傷をする人が減ればいいなと私は思います。

すきま

北海道倶知安町立倶知安中学校三年 あしだ いちこ
芦田 一瑚



みなさんこんにちは。今回、私がみなさんに伝えたいことは特にありません。でも、私が話したいことが一つあります。りっぱな発表ではありませんが一つだけ言わせてください。この話は今を生きる私の話です。

私は今、十四歳の芦田一瑚として生きています。中学校三年生。この年、時間のことを私はよく「大人で子ども」だと思っています。大人であり子どもであることを正直うまくのみこめません。でもこの気持ちこそが、「大人で子ども」なのです。小学生の時、中学生はとても大人に見えました。今、高校生はとても大人に見えます。きっと高校生になっても、大学生になっても、社会に出ても、みんな大人に見えいくでしょう。あなたはどうか。大人ですか。まだまだ子どもですか。

さきほど、中学校三年生の今を「大人で子ども」と言いました。しかし、幼稚園児も小学生も中学生も高校生も大学生も社会人もみんな「大人で子ども」なんです。大人や子どもであるいぜんにみんな人間なんです。年をとって大人と呼ばれたとしても、本質は子どもといっしょ。大人でも、仕事にはいきたくないだろうし、一人だったらさみしい。どんなに小さな子だろうと、だれも助けてくれないとわかったら、一人でなんとかします。一人で生きていけます。だから、大人だからといって、自分で考えて、なにもかもかかえこむ必要はないし、子どもだからといってまかせっきりではいけない。

私は、中学生です。中学生、高校生と、日に日に、行動の責任は一つ一つが大きな物となり、考え方がより現実味の強いいわゆる大人に近づいていきます。でも、私はいつまでも子どもの心を持っていたい。そう考えています。

私の母は、基本私のことを大人と同じように、いや、一人の人間としてあつかってくれています。だから、自分のやることはすべてではなくとも自分で選択していかなければいけないという大変さと自由さがあります。そして、母は、とても弱さを見せます。だから、すべて完璧である必要がないことも伝えてくれます。そんな母に私はとても感謝しています。

だからこそ、私は「大人で子ども」です。実はあなたも「大人で子ども」です。みんな本当は「大人で子ども」です。大人として日々を生きるみなさん。子どもの心をとりもどしてください。子どもとして生きるみなさん。大人の心を知ってください。本当はみんないっしょなのだから。少ししか生きるという経験をしていない子どもと、たくさん生きてきている大人。みんないっしょに学んで、いっしょに生きています。

「みんな大人で子ども」これが私の言いたかったことです。10代も20代も30代も40代も50代も60代も80代も90代も100歳になっても「大人で子ども」この世の中にあふれている学びや体験に、大人だから、子どもだからなんてない。私の思いをただただ知ってほしい。

自然と共生のために

北海道ニセコ町立ニセコ中学校三年 ^{むらた}村田 ^{なおと}修杜



朱鞠内湖で釣り人が行方不明、ヒグマに襲われたか---

五月の半ばに目に飛び込んできた衝撃的なニュース。皆さんの記憶にも新しいと思います。五月はクマが繁殖のために活発に動き出す時期で、予期せず人間に遭遇してしまったがための悲劇だったと言われています。

近年、ヒグマの個体数の増加に伴い、自然の中だけでなく市街地までクマの目撃情報が多く寄せられています。また、人身被害だけでなく農作物への被害も深刻です。昨年もクマによりトウモロコシやスイカなどが食い荒らされたというニュースを何度も耳にしました。北海道の報告によると令和三年度のヒグマによる農作物の被害金額は二億六千万円。さらにエゾシカなどを加えた野生鳥獣による被害総額は、なんと五十四億五千万円にもものぼります。また、令和三年時点でのエゾシカの推定生息数は約六十九万頭と言われており、ここ十数年高い水準を保ったままなのだそうです。

なぜ、こんなにも野生動物が増加し、被害が深刻な状態になっているのでしょうか。過疎化や高齢化により耕作放棄地が増えたことや、動物をとりまく環境の変化などが挙げられます。さらには、ハンターの減少により狩猟で捕獲される数が減り、結果として個体数が増加しているとも言われています。私はこのハンターの減少がどのくらい野生動物による被害に影響を及ぼしているのかとても気になり、調べてみました。大日本猟友会によると、昭和五十一年の狩猟免許交付数は約四十六万件なのに対し、平成二十九年では約二十一万件と半数以下に減っていることがわかりました。更にいえば、その二十一万件の内半数以上が、六十代以上の高齢者だということです。これでは、狩猟自体が減り、野生動物は増えていく一方だと思いました。

日本に限ったことではないのですが、世界には「狩猟」という文化があります。「狩猟」は獲った獲物を解体、精肉し食べるところまでがワンセットです。農作物や人間に被害を及ぼす有害な動物を捕獲し、処分する「駆除」とは大きく異なります。特に、エゾシカは、この北海道の地で古くからサケと並ぶ貴重な食料資源として親しまれてきました。「ジビエ」という言葉を聞いたことがある人もいるとおもいますが、現在でも野生動物の肉は貴重な食材として珍重されています。私の父もシカ肉が好きなので、ときどき食卓に上ります。少しクセはありますが、僕は美味しく食べています。また、インターネットで検索すれば、道内のエゾシカ肉を使ったジビエ料理を提供するお店は数多くあり、私が住むニセコでとれたシカを使ったジビエ料理もありました。恒常的に狩りがされていたころには、森の恵みとして感謝しながら動物たちの命をいただき、自然の微妙なバランスを保ってきたと言えます。このことから、狩猟は適切に行われるべきだと僕は思います。

今、環境の変化やハンターの減少により自然の生態系が崩れ、獣害が深刻な問題となっています。命への感謝も薄れ始めています。そんな今だからこそ、自然とのバランスを保つためにも、今まで続いてきた文化であり大切な伝統である「狩猟」について考えていく必要があると思います。きれいごとだけですまされない現実もあるかもしれません。しかし「駆除」するだけでなく、命への感謝を忘れない「狩猟」が増える。自然と賢く付き合い森の仲間と共生していく、そんな未来であるべきではないでしょうか。さて、皆さんはどう考えますか？



「不老長寿」と本当の幸せ

北海道ニセコ町立ニセコ中学校三年 佐々木 礼

皆さんは、いつまでも老いずに長生きすることができる不老長寿の世界が訪れてほしい、そう思うことはありませんか。

現在、主に日本や先進国では3Dプリンターを使った臓器作成や寿命を伸ばしたり、人間の脳をコンピューターに組み込んだりして、不老長寿の社会を目指そうとする研究が進められています。しかしこのような研究や人間の長生きは人に幸福をもたらすのでしょうか。

厚生労働省による日本人の寿命の推移から、一九五〇年には六十歳前後だった日本人の寿命は二〇二〇年には八十歳を超えている事が読み取れるため、不老については現在もうすでに、ある程度達成しているといえるでしょう。それに加え、WHO世界保健機関による世界の平均寿命ランキングでは、シンガポールや韓国、スイスを抜いて日本が一位です。このように日本の医療の発展や長年に渡る研究は人の長生きを可能にしてきました。また、今後も人の寿命は伸びていくと思われれます。ですが、僕は長生きが必ずしも人間に幸せを与えるとは思いません。それに、人々は古代の人間が勝手に作った長生き=幸せという概念に囚われすぎてはいないでしょうか。

皆さんは、テレビニュースなどで百歳を超えたおばあさんが長寿記録を達成し、表彰されるような場面を見たことがありますか。僕は明治から五つの時代を生きた女性が長寿記録の更新を讃えられるニュースを見たことがあります。その時、隣に座っていた、お寺の住職である父がこうつぶやいたのです。「この人は本当に嬉しいのかなあ」と。僕はその言葉にはっとさせられました。そしてこのテーマについて考えてみることにしました。僕はその女性について現代でそれだけの長い期間生き抜くことは本当にすごいことだと思います。しかし、深く考えるほど、本人の感情の中に存在しているのは「幸せ」だけではない気がしてきました。あくまで僕の考えですが、長生きするという事は、楽しいこと、嬉しいことと同時に辛いこと、しんどいことをたくさん経験するという事だと思います。長い時代を生き抜くなか、次第に同世代の人たちが亡くなっていき、さらには自分の子供が先に亡くなってしまふなど、長生きせずに人生を終えた人が味わうことのなかった辛さを経験することもむしろ多いのではないのでしょうか。一方で、世界には生まれたときの状態や環境に恵まれず、ごくわずかな時間で命が絶えてしまう子供も少なくありません。ですが、その子たちの人生が不幸だったとは一概には言えない気がします。なぜなら、その子たちは何も悪いことをしていませんし、その命を守ろうと周囲の大人たちが必死で手を尽くし、精一杯愛情を注いだかもしれません。そして何より、その命という灯火が灯ったということが、どんなものにも変えられない、最も幸せなことだからです。

つまり僕が伝えたいのは、長生きすることだけが幸せというわけではなく、限りある儂い命、人生をどれだけ意義あるものにするか、どれだけ大切にすることが重要なのだということです。アフリカの国々の平均寿命は現在五十五歳前後で、生きることの難しさが大変うかがえます。このことから僕は不老長寿を目指す前に誰にでも幸せや健康が訪れるような素敵な社会を作るべきだと思います。僕自身はニセコの大自然の中、お寺で育ち、命のありがたみについて学ぶ機会が数多くあります。これからもこの環境に感謝しつつまで続くか分からないこの人生を自分なりに大切に過ごしていきたいと思っています。

命と言葉の重さ

北海道余市町立西中学校一年 ほんま 本間 ゆうか 由珂



みなさんは人に悪口を言ったことがありますか。きっと言ったことがある人が多いと思います。そして相手に言った言葉は自分に返ってきます。言ったことがある人は言われたこともあると思います。そして、言うことより言われたことの方が記憶に残ります。言った時に何も考えていないのだと思います。ただ自分の気持ちだけを考えているのです。

私は容姿や体型で笑われたことがあります。私も笑われた時はショックで泣いていました。ですが私も相手に言ったことがあるのです。これは悪口ではなく、他のことでも言えます。例えば、もし相手のことをふざけて叩いたとします。そしてその相手が叩かれたことに怒ってあなたのことを叩いたとします。きっと叩かれたことに驚いたり、少し距離を置いたり、喧嘩になってしまう場合も人によってはあるかもしれません。そして「自分はふざけているだけだった」という言葉が出てくる人もいますし、ふざけているだけだから、そこまで重く考えていなかった、おぼえていないという人も出てきます。これは、特に相手のことを考えず行動した末路です。

では、どうしたら今後このようなことを避けられるのでしょうか。

私の体験から考えたのは、陰で言う前にまず相手に少し言ってみると良いのでは、という案です。もちろんそのままではなく、「さっきの言葉いやだった」や「そんなこと言わないでほしい」など、相手に自分の気持ちを伝えてみるのです。そうすれば後に引きずることもないはずですが、でも怖くて言えない人もいます。私も何も言えなくて何年も引きずっています。今さら言った所で変わりはありません。やはり少しの勇気がいるのです。

そこでまず、みなさんに伝えたいのが、後悔する前に勇気を出して行動する、ということです。本当に勇気がありますが、その一瞬で未来が変わると思っています。後悔する前に一度勇気を出してみてください。

そして私がもう一つ伝えたいのは言葉の重さについてです。先ほど私は「容姿や体型などで笑われたことがある」と言いました。そのあとに「何年も引きずっている」という事も言ったと思います。私はあの一言で、何年も、何回も悩み、苦しみました。きっと同じ様な体験をした人もいないでしょうか。そしてその一言で命を落とす人もいます。その一言で人生が変わる人もいます。今ではインターネットの普及によって匿名で相手を叩く人もいます。スマホを通していても、言葉は同じです。一度立ち止まって考えてみてください。その行動で一つの命が助かるかもしれません。

私は、「後悔する前に勇気を出して行動する」と「一度立ち止まって考える」という2つの事をみなさんに伝えたいです。悪口を言うなどは思っていません。ただその一言で追い込まれて命を落とす人が少しでもいなくなることを願っているだけです。私はあの一言で人に会えなくなっていました。周りの人から笑われている様な気がして、毎日吐き気が止まらなかった時もあった程です。こんな思いをもう他の人にしてほしくないです。周りとは違う所があっても、命と言葉は全員平等な重さなのです。

自分が今はまっていること

北海道仁木町立銀山中学校一年 おいかわ 及川 りおん 莉桜



皆さんは、今はまっていることはありますか？私は三つはまっていることがあります。

一つ目は、歌うことです。私は好きなアーティストがいて、その人の歌をよく歌って聴いています。そのアーティストは清水翔太さんで、「ぼくの大切な人」という意味が込められた曲があります。

なぜ、この曲が好きかという、「恋愛は算数じゃない」という歌詞がとても心にささり共感できたからです。

人と人との関係は、計算とか公式とか法則とかで成り立っているのではない。「思いや感情を大切にしたい」と心から思えるからです。

また、小学4年生のとき家族と初めてカラオケにいった時に、兄がこの曲を歌っていて、ステキな曲だなと思ったのです。家に帰って調べて聴いたら、より素晴らしさを感じました。私はこの曲を歌うと、とても気分がよくなります。家族で楽しく過ごしていた頃のことを鮮明に思い出せるからです。

二つ目にはまっていることは、ドラマを見ることです。あるドラマの中で、主人公がウエディングドレスを選んだりしている場面があり心が躍りました。キレイなドレスがたくさんある中で、お客さん一人一人の意見を聞きその意思を尊重しドレスを選ぶシーンを見て、すごく素敵だなあと思いました。私の夢は美容師でしたが、また、新たな選択肢として、ウエディングプランナーになりたいなとも思いました。

ドラマは、外の世界を知る貴重な機会であり、自分自身の夢を広げられることが、ドラマにはまっている理由です。

そして三つ目は、外遊びにはまっています。中学生が外遊び？と思うかもしれませんが、外遊びは、鬼ごっこしたりおしゃべりしたりとスマホが使えない環境にある私にとって、友達と思いっきり過ごすことができる時間となっています。時には幼児さんも交えて、一緒に遊びます。そんな外遊びが私は大好きです。

なぜかという、皆と遊んでいると皆の笑顔が見られるからです。いろいろな人の笑顔を見ていると自分まで嬉しくなるからです。

だから、皆といるこの時間を最高に楽しみたいし、みんなと笑顔で過ごすことができている環境を当たり前と思わずに大切にしたいのです。

私は、今改めて、どうしてこの3つの、他の人からことに、なぜ、はまっているかを考えてみました。

すると、私がおかれている今の生活の中で、時には悲しみや寂しさで崩れそうになるけど、自分に「はまること」をたくさん見つけて、上を向いて前向きに、楽しく生きていくことが大切だと気づきました。

だから私は、これからも、仲間の笑顔を見て過ごしていきたいから、人の意思を尊重し、仲間を大切にしたい。加えて、自分自身を大切にするために、自分の気持ちにも正直に生きていきたいです。

そして、将来を考えて、勉強も部活など今の学校生活を頑張り、自分自身に自信をもって、笑顔たっぷりに生きていきたいです。

私は、「はまっていること」をこれからも、よりはまり、さらには新たなはまることも見つけたいです。

大切な人と過ごす大切な時間

北海道岩内町立岩内第二中学校三年 やまもと 山本 まあさ 真亜沙



家族。それは私達にとってどのような存在なのか、そう考えたことはありませんか？その答えは人によっては様々で、人によってはとても難しい問題です。私自身も、すぐには答えられないと思います。ですが一つ分かっていることがあります。それは家族は私の支えになっているということです。家族が私にしてくれたことの一つ一つが今の私に生かされているのです。いつも私にあたたかく接してくれる家族。ですがこのあたたかさはずっと続くものではありません。

私が中学一年生の時です。家から帰る時祖母から「ひいおばあちゃん、倒れてた、どうしよう」と連絡が来ました。私はすぐに母と隣町の曾祖母の家に行きました。祖母はかなり混乱していて、私達が来るまで救急車を呼んでおらず、呼ぼうとしてもまちがって警察に電話をかけていました。しっかりものの祖母が混乱する姿をみて私もパニックになりはじめました。しばらくしてようやく救急車が来て、曾祖母は病院まで運ばれました。曾祖母がいない曾祖母の家を見ていると、さっきまでここに人が倒れていたとは思えず、今にも奥の部屋から「よく来たね。」と曾祖母がやって来そうな気がして何ともやるせない気持ちになりました。

曾祖母が病院に運ばれてからしばらくたったところ、曾祖母は介護施設に移動することになりました。ですがその頃は新型コロナウイルスの影響で面談をすることができず、できたとしても祖母だけがガラス越しに面談できる、という状況でした。曾祖母の状態を祖母に聞いたところ、記憶があやふやになっているらしく、実の娘である祖母の名前も言われないう思い出さないようなのです。よく家に行くと冷えたジュースやおかしをくれた曾祖母、夏には庭のサクランボやプルーンを収穫していたのですがその仕事も祖母がやることになりました。家族、曾祖母は私の大切な家族です。先ほど言った様に家族は私の支えになっています。家族にはたくさんの事をしてもらっています。曾祖母も例外ではありません。曾祖母の今の状態を聞いてからは曾祖母にももらったたくさんの恩をあだで返している気がしていました。曾祖母が自分の娘の名前も思い出せない中私は何もできないまま毎日をすごしているのです。こんなのは本当に家族と言えるのだろうか、私は祖母の家で曾祖母の話を聞くたびにそのように考えて不安になってしまいました。

そんな中、今年の5月にやっと曾祖母と面談ができるようになりました。およそ2年振りに会う曾祖母、嬉しい反面まだ私の心の中のわだかまりは溶けないままでした。施設の中に通されて会った曾祖母は2年前よりやせていて髪も白くなっていました。ですがその顔はスッキリしたような顔でニコニコ笑っていました。ですがやっぱり私の名前は出てこず、まあそうだよな。と思った時、祖母が厚いアルバムを出し昔の私の写真を曾祖母に見せました。すると曾祖母はどこか思い出した様に私を見て、またニコニコ笑いました。その後私は曾祖母に色々な話を聞きました。施設の人と仲良くしていることなどを楽しそうに。話している中で私に曾祖母がおかしをくれました。その姿が私が知っている曾祖母そのもので、その時私の心のわだかまりが一気に溶けた様な気がしました。

家族、それはどういう存在なのか、最初に言った通り今でもよく分かりません。私はこれからも曾祖母や他の家族と過ごす中でずっとそれを考えると思います。みなさんも常日頃から考えてみてください、みなさんの大切な家族がみなさんとずっといるというのは難しいことです。そのことを意識して考えて考えて考えて、ようやく答えがでてきたその時こそ、あなたが胸を張って家族を愛していると言える時かもしれませんね。

いじめをしている人達へ

北海道倶知安町立倶知安中学校三年 ^{よしだ}吉田 ^{ももか}百花



いじめは弱い者のすることです。自分に逆らうことの出来なさそうな人をわざわざ見つけ、精神的であったり肉体的であったり、暴力を浴びせ、そして「自分は強いんだぞ」とでも言うようにいじめをする。これが強い者のすることでしょうか。

いじめをしている人にも事情があると聞いたことがあります。例えば、家庭で暴力を受けていて、その暴力が日常的であると学校でも暴力をふるってしまうことがあるようです。あとは、ストレス解消のためだったり、自分がいじめられないためだったり、面白半分であったりと理由は様々です。ですが、どれもいじめをしていい理由にはなりません。いじめによって小さな一つの命が失われる可能性があるからです。実際にいじめによって自ら命を絶ってしまうケースも少なくありません。

いじめが学校などで隠ぺいされ、ニュースにならないこともあるようです。学校側からすると評判が悪くなり、学校にマイナスな印象を持たれてしまうこともあるので、いじめが起きてしまったことすらも隠し、そのことを無かったことにしてしまうのでしょうか。だけど、起きてしまった事件は受け止めて、もうそんなことが起こらないようにする必要があります。ニュースなどに取り上げ、いじめによる被害や恐ろしさを伝え、心に傷を負ってしまう人、命を捨ててしまう人が出ないようにする必要があります。私は皆さんにいじめの辛さを知ってもらい、いじめが起こらないように、いじめで起きたことを社会に出してほしいと思います。

元々は私もいじめの被害者でした。あの頃は小学校一年生でしたが、中三になった今でも忘れられません。私は二つ上の三年生からいじめられました。内容は些細な悪口や暴力などで、いじめの中では軽いものだったのですが、幼かった私には充分でした。すぐに泣いてしまうのが面白かったのか、それが何日も繰り返えされました。そのことで私は軽い人間不信になりました。誰も信じたくないし、信じる事が出来ないし、誰かに相談することが難しくなっていました。人に言うことすら難しいので、自分の中に溜め込んで辛くなっていく始末。だから、どんなに軽くてもいじめはいじめです。

私はまだ軽い方で良かったと思ったとってしまうこともあります。世の中には私よりも酷いいじめを受け、今でも人間不信のままの人や、そのことがトラウマになり生活すらままならない人、そしてもうこの世にいない人なんかがたくさんいるからです。

いじめた側の人達が覚えているかという、きっと覚えていません。いじめられた人達は忘れられず、今も苦しんでいるというのに、いじめた本人達はいじめたことを忘れ、普通に生活しているのです。被害者の人達がいじめられた時の記憶に苦しんでいる時があるのに、いじめた人達はいじめたことなど忘れて生活している。これはおかしいと思います。いじめをしてしまったことを反省し、社会に出てほしいと思います。

私の場合は、今の友達が支えてくれたおかげで、人に相談できるようになり、いじめも何とか解決することが出来ました。ですが、時々思い出すことを考えると傷が消えることはないと思います。

いじめをしている人達へ、あなた達はいじめを続け、人々を傷つける弱い者か、弱い者を助け、共に支え合う強い者になるか、あなたはどちらを選びますか。

審査講評

後志小中学校長会副会長・古平町立古平小学校長

審査員長 丸 岡 哲 也



18名の弁士の皆さん、少年の主張後志地区大会に挑戦したことに敬意を表します。そして、聴衆の皆さんが引き込まれた皆さんの熱意溢れる主張に拍手を送ります。

日々の経験から得られた気づきや学びを、自分の言葉で前向きに主張してくださったことがすばらしいと率直に感じました。

皆さんはこの大会に向け、原稿を何度も何度も推敲し、練習してきたことと思います。自分の力を十分に発揮できた人もいれば、思うように力を出せなかった方もいらっしゃると思います。弁論は自己を知り、自己を高めるものです。今回のこの結果に一喜一憂することなく、また、是非挑戦していただけることを心から願っております。

更により弁論にするために、私の思いを述べさせていただきます。ご参考になれば幸いです。

主張の内容に当たる「論旨」と、本日この会場での主張となった「論調」について、お話しします。

一つ目は、「論旨」です。

事前に論旨の審査をいたしました。すーっと流れるように読めるものであれば、その主張が分かりやすかったり、強く心を打ったりします。そのために、主張を展開する上で、段落をふんだ組み立てが必要です。代表的なものに、「序論→本論→結論」の三段法と、「起→承→転→結」の四段法の二つがあります。また、皆さんには、この少年の主張に望むに当たって、テーマや話題、題材があり、そして、聴衆への訴え、主張があります。この『テーマや話題、題材』と、『訴え、主張』にメリハリを付けることが大切です。

課題として感じたのが、序論や「起→承→転→結」の起に来る『テーマや話題、題材』と、結論や「起→承→転→結」の結に来る『訴え、主張』に差がないことです。聴衆に訴え、主張したことが印象に残るようにするためには、『テーマや話題、題材』をやや小さく扱ったり、簡潔にしたりすることが、解決の方法の一つです。また、本論の後半や「起→承→転→結」の転において、『訴え、主張』をより確かで強くしたり、新たな視点を得たりしたきっかけや体験があると、主張の展開にアクセントを付けたり、クライマックスを感じたりすることができます。

二つ目は、「論調」です。ポイントは2つです。

一つ目は、一回で分かる言葉を選ぶことです。

聴衆に対し、弁士が話した言葉を聞き取れなかった、言葉の意味が分からなかったというのは、聴衆はその言葉が理解できないまま、その間の主張を聞くことになってしまいます。適切な言葉選びや専門用語の使い方、世代間の配慮、言葉のイントネーションなどに配慮することが大切です。

二つ目は、間です。

「間」は弁論の肝です。小さな間、大きな間、たたみかけなど内容がより聴衆に伝わるような「間」を工夫してみましよう。

しっかりと聴衆の心に投げかけ、考えさせる「間」の取り方、一緒に呼吸するような弁士と聴衆が一体感のある弁論ができたらいいですね。

また、話す速さも大切です。記憶した文を正確に言おうとするあまり早口になりがちです。聞き取りやすい速度には個人差はありますが、1分で200字程度を参考にしてください。

本日は、緊張のある中、大変お疲れ様でした。そして、ありがとうございます。少々長い話になってしまいましたが、以上講評とします。

会場風景



◆審査結果の発表を待つ皆さん◆



★最優秀賞は蘭越中学校の久保田さんです!



★優秀賞は寿都中学校の椎久さんと岩内第二中学校の後藤さんです!



◆審査員の方々

◆審査員長の講評



1 目的

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められている。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表する機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機となることを目的とする。

2 主催

後志総合振興局

3 対象

後志総合振興局管内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの（以下「中学生」という）。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。

なお、作品は未発表、自作のものに限る。

4 名称

令和5年度「少年の主張」後志地区大会

5 実施要領

後志総合振興局管内の中学生を対象に意見主張の場を設定する。

(1)実施方法

大会形式により実施する。

開催にあたっては、換気、消毒、距離の確保や主催者のマスク着用など基本的な感染防止対策を講じ、また、地域の新型コロナウイルス感染症等の状況に応じて、観客数の制限など必要な対策を講じる。

(2)募集

- 教育局の協力を得て、管内市町村教育委員会等を通じて、各中学校に対し、周知を図る。
- 各市町村単位、各学校単位で実施している主張大会、弁論大会等と連携した募集の他、自由公募などにより募集する。
- 広報媒体を利用した募集に努める。

(3) 発表内容

次のような内容で、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを少年らしい自由でユニークな、飾り気のない言葉でまとめたもの。

- 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
- 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど
- テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

※商業的な固有名詞の使用は極力避けることとする（例えば、「〇〇にある〇〇旅館」を「〇〇にある旅館」に言い換えるなど）。

※楽器、絵画、フリップボード等の小道具を使用したパフォーマンスを取り入れてもよい。

(4) 発表時間

5分程度（400字詰原稿用紙4枚程度）

※全国大会の規定が、学校名、氏名、タイトル等の部分は除く「作文本文の出だし」から「作文本文の終わり」までで4分30秒～5分30秒となっているため、この範囲内に収めてください。

(5) 審査

- ・ 関係機関等に、選考に係る審査員の推薦を依頼する。
- ・ 審査により、順位付けし、最優秀者1名及び優秀者2名を決定する。

(6) 審査基準

ア 論旨

- ・ 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ・ 新しい情報や視点があるか。
- ・ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ・ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ・ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

イ 論調

- ・ 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ・ 説得力ある話し方であったか。
- ・ 話し振りに熱意と迫力があるか。

(7) 開催月日(審査月日)

7月28日(金)13時30分から

(8) 開催場所

後志総合振興局2階講堂(虻田郡倶知安町北1条東2丁目)

(9) 表彰

最優秀者1名及び優秀者等に対して賞状等を授与する。

(10) 推薦

最優秀者を全道大会参加者として、環境生活部に推薦する。最優秀者が参加できない場合は、次位の者を推薦する。

6 その他

- ・ 主張発表者の原稿は400字詰原稿用紙(A4)縦書きで、本人自筆による原本(障がい等による場合はワープロ可)とする。

※異なるサイズの場合、A4サイズに書き直した原稿が必要となりますので、ご注意ください。

- ・ 応募された作品は、原則返却しないこととし、北海道に帰属するものとする。
- ・ 原稿の書き出しについては次のとおりとする。

3 行 目	年	2 行 目	1 行 目
		北 海 道	タ イ ト ル
氏		学 校	
名		学	

令和5年度「少年の主張」全道大会結果

発表順	振興局等名	学 校 名	学 年	氏 名	テ ー マ	受 賞
1	宗谷	利尻町立利尻 中学校	3	イイダ サエ 飯田 冴	自分の仕事に誇りをもって	
2	日高	浦河町立浦河第一 中学校	3	オオヤナギ 大 柳 マヤ 茉耶	部活で学ぶのは技術がすべてじゃない	
3	胆振	厚真町立厚南 中学校	3	カサハラ サクラ 笠原 桜空	当たり前	優秀賞 ((公財)北海道青少年育成協会会長賞)
4	札幌市	札幌市立平岸 中学校	2	バン ユメカ 坂 夢叶	曾祖父母への感謝	
5	根室	標津町立標津 中学校	3	カラサキ アイカ 唐崎 愛華	個性超える子、成長ある	
6	上川	下川町立下川 中学校	3	ミウラ かん 三浦 な	恨みを愛へ	最優秀賞 (北海道知事賞)
7	檜山	乙部町立乙部 中学校	3	ミスガミ オウスケ 水上 桜佑	「できること」	
8	石狩	千歳市立千歳 中学校	3	ヤベ ユミ 矢部 優実	読書を「楽しむ」ことの大切さ	
9	札幌市	札幌市立宮の丘 中学校	2	ナカガワ ミユ 中川 心結	自分の心を大切にすゝ ~新自己中のすゝめ~	優秀賞 (北海道教育委員会教育長賞)
10	留萌	遠別町立遠別 中学校	3	イトウ ヒヨリ 伊藤 日和	認め合いの輪を広げたい	
11	釧路	釧路市立幣舞 中学校	3	サジョウ レント 嵯城 蓮人	負の連鎖を断ち切る	
12	後志	蘭越町立蘭越 中学校	3	クボタ ショウコ 久保田 翔子	他人と自分	
13	渡島	北斗市立浜分 中学校	3	ヒラオ モエカ 平尾 萌花	私に必要な勉強	
14	十勝	中札内村立中札 内中学校	2	ヤマノ サリ 山野 紗璃	ジェンダーレスへの一歩	
15	空知	岩見沢市立明成 中学校	3	ウチザキ いお 内崎 り	人との関わり	優秀賞 (北海道PTA連合会長賞)
16	オホーツク	斜里町立知床ウトロ 学校	9	イワヤマ ミサ 岩山 心咲	「声で伝える」ということ	

令和5年度「少年の主張」後志地区大会集録

北海道後志総合振興局保健環境部社会福祉課

〒044-8588 虻田郡倶知安町北1条東2丁目

電話 0136-23-1935 (直通)

令和5年12月発行